

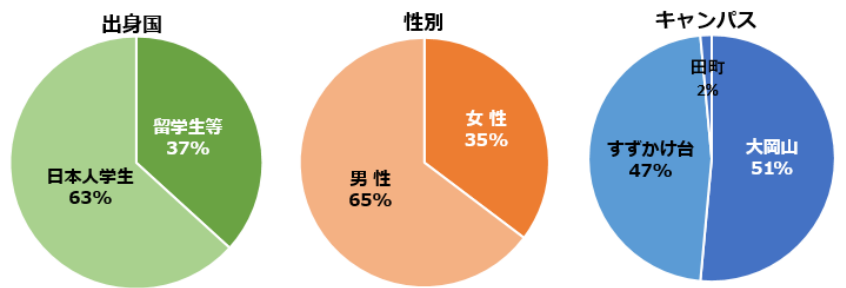
アウトカム 1

"Student-centered learning"の実現と多様な学生・教員の獲得

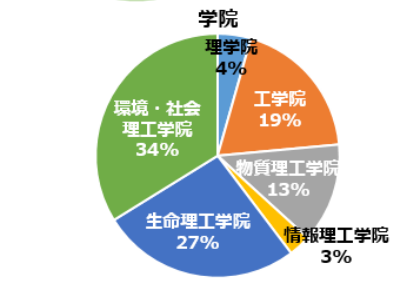
「リーダーシップ教育院」の設置と教育実施

◇ **リーダーシップ教育院 (ToTAL)**
 特に優秀な大学院学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、本学で採択された4つの博士課程教育リーディングプログラムの後継組織として、平成30年4月に設置。

登録学生 68名 2022年4月現在



◇ **理工系学生のための「リーダーシップエクセレンス教育」**
 根幹をなすのは、少数精鋭で密度の濃いディスカッションを行うグループワークであり、本教育院の学生のみならず、卓越教育院の学生を含む全学の学生に対して授業やイベントを公開。



多彩な国籍 (16か国)
 Bangladesh, China, Indonesia, Iran, Italy, Japan, Korea, Malaysia, Mexico, Morocco, Philippines, Singapore, Thailand, The Netherlands, United States of America, Vietnam

リーダーシップ教育院 (ToTAL)
<https://www.total.titech.ac.jp/>

アントレプレナーシップ教育の推進

◇ **アントレプレナー教育WG**
 2019年度にCBEC (チーム志向越境型アントレプレナー育成プログラム)、PEECs (実践型アントレプレナー人材育成プログラム)、ToTAL (リーダーシップ教育院)、CUMOT (キャリアアップMOT) 及び社会人アカデミーの各種プログラム、研究・産学連携本部からの代表者等から構成されるアントレプレナー教育WGを立ち上げ、情報交換を開始。2020年度に本学Webサイトで関連情報を一括して紹介し、2021年度には学士課程学生を対象とした「アントレプレナーシップ入門ワークショップ」を新たに立ち上げた。

◇ 「学士課程教育へのアントレプレナー教育導入」の足掛かりとして「アントレプレナーシップ入門ワークショップ」を開催
 学士課程63名、修士課程6名、博士後期課程2名が参加。

アウトカム2 研究成果の世界的認知度の向上

卓越した人材を世界から戦略的に招聘・雇用

◇ Tokyo Tech World Research Hub Initiative (WRHI) (右図)

海外・国内大学等から世界第一線の研究者、研究グループや研究拠点を広く受け入れ、「世界の研究ハブ」を実現し、世界トップクラスの研究者の異分野交流を促進。

◇ 世界トップレベルの外国人研究者を多数雇用
フルタイム14名、クロスアポイントメント52名。WRHIにおける国際共著論文数は96報であり、質・量とも高い成果を上げており、国際性の高い優れた研究を実現。



Tokyo Tech ANNEXの設置、海外大学・企業等との連携教育研究実施

◇ Tokyo Tech ANNEX

海外の大学、研究機関、企業等と連携して行う国際的な教育活動、広報活動及び研究活動を戦略的に推進、実施し、本学教育研究の発展に寄与することを目的とする、新たな海外拠点。

◇ ANNEX Bangkok

令和3年度のResearch Showcase (本学の最先端の研究を紹介)では、共催のタイ国立科学技術開発庁 (NSTDA) の研究者もゲストスピーカーとして研究紹介を行い、約140名参加。

◇ ANNEX Aachen

協定校であり、ANNEXを設置しているアーヘン工科大学との研究交流を活発化させるため、JointWorkshopを開催。令和3年度は本学、アーヘン工科大学及びユーリッヒ総合研究機構より計18名の研究者が最先端の研究を報告。大学・企業等から延べ約300名の参加。

◇ ANNEX Berkeley

本学ウェブサイトにてTokyo Tech ANNEX Berkeley開設のスペシャルトピックス、プレスリリースを10月1日公開。Tokyo Tech ANNEX Berkeleyサイトも10月1日に同時公開。

研究ユニット・研究センターによる新領域・融合領域の研究推進

◇ 研究ユニット

具体的なミッションに基づいて機動的な研究グループとして期限を設けて設置、本学の最先端研究分野が抽出された組織群となっている。ユニットリーダーの強力なリーダーシップの下で、社会からの要請に応える研究や将来を囑望される萌芽的な研究を推進。14研究ユニット活動。

◇ 研究センター

研究ユニットの持つ様々な強みを最大限活かし、研究拠点として発展したもので、一層の研究力の強化と新たな知の創造による社会貢献を目指している。細胞制御工学研究センター、先進エネルギーソリューション研究センター、社会情報流通基盤研究センター、未来の人類研究センター、全固体電池研究センターの5センターが活動。

令和3年度
直接研究費総額
約28.7億円
間接経費
6億8,000万円
Nature Science
姉妹誌6誌
14報の論文発表
国際的学術誌
合計209報の論文発表

未来社会DESIGN機構の設置、未来社会像とその実現方法の提案

◇ 未来社会DESIGN機構 (DLab) <https://www.dlab.titech.ac.jp/>

「人々が望む未来社会とは何か」を、社会の一員として考え、デザインすることを目的として平成30年9月設置。

◇ 企業等との連携：「DLabパートナーズ」会員11社

DLabの活動に賛同する企業が会員。令和3年7月・9月に、コロナ禍をきっかけにDLabの未来シナリオを見直すことをテーマにWS開催。令和3年度後半、学士課程講義「未来社会デザイン入門」にて受講生とのグループワーク等実施。

◇ 研究奨励金「DLab Challenge」研究テーマ4件採択

(前年度採択の4件と合わせ計8件に最長3年の支援)

DLabが提示する「ありたい」未来社会像の実現に繋がる研究あるいは未来社会像実現のために新たに必要となる学術分野の創出に繋がる研究への支援。

※本取組みには東工大基金を活用。

◇ 社会との対話と発信「DLab Future Techscapers」(右図)

研究者が未来シナリオに基づきながら研究を語る動画をYouTubeにて公開。

オンラインイベント「DLab Dialog Day」を2日間開催。



アウトカム4 新たな領域の知の社会実装等の社会連携活動の強化

ベンチャーインキュベーションセンター設置準備

- ◇ 「イノベーションデザイン機構」令和4年4月設置 <https://www.idp.ori.titech.ac.jp/>
 研究・産学連携本部ベンチャー育成・地域連携部門を廃止し、発展的な組織として同本部の下に設置。研究成果をもとにしたベンチャー育成・創出・支援を本格的に行う組織として、東工大発ベンチャーの創出と育成、GTIE（次項参照）事業を推進しつつ、インキュベーション環境整備に取り組む。
- ◇ JST START事業「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」開始 <https://gtie.jp/>
 JST SCORE事業「イノベーションデザイン・プラットフォーム (IdP)」の枠組みを拡大し、東京工業大学・早稲田大学・東京大学の共同主幹で開始。「スタートアップエコシステム東京コンソーシアム」と連動、地方自治体・大学・VC連携により成長支援まで連続的・持続的な支援を行う。

アウトカム5 教育研究基盤発展の自立化

Provostの配置 President-Provost制の試行と本格実施に向けた検討・準備

- ◇ **President-Provost体制構築**
 学長と総括理事・副学長（Provost）が両輪となって経営力・教育研究力を向上させていく体制を令和2年4月に整備
- ◇ **アドバンスメントオフィス**
 学長が主導する多様な社会連携活動を戦略的・組織的に推進したり、国内外におけるレピュテーションの向上及び学外からの資源獲得の促進に資するための施策を検討・展開

